

No.11

市内のフェアトレード協力店舗増加に向けての取り組み

フェアトレードや地産地消を通じ、お店や生産者の方々とコミュニケーションを取りながら、市民同士をつなぐまちづくりや地域活性化の一助となる活動をしています。協力店舗を増やすことで、フェアトレード商品が市民の方々の目にも触れる機会が多くなります。

フェアトレードとは、貧困のない公正な社会を作る貿易の仕組みであること。その仕組みの中で、私たちが買い物をすることが、途上国生産者の人権保護、労働環境改善、児童労働撤廃、生活向上の支援につながるということ。

まずは、フェアトレード商品を目にする機会を増やししながら、それらを市民の方々に知っていただくことを目指しています。



フェアトレードタウンマップの作成、スタンプラリーの実施

マップを作成、そしてフェアトレード取扱店舗を巡るスタンプラリーを開催することで、多くの方々に地元のお店を巡っていただき、フェアトレードを知ってもらうことを目的としています。

かつ、各商店の活性化から地域全体の活性化へつながることを目指し、活動しています。



地元の子どもたちを対象としたイベントや授業の実施

未来を担う子どもたちに、読み聞かせ、紙芝居、SDGsゲーム、フェアトレードチョコレートを使った料理教室といった様々なイベントを通して、フェアトレードのことを伝えています。

また、いなべ市と連携し、市内中学校でフェアトレード授業の講師を務めています。フェアトレードや、SDGsの理念を楽しく学ぶことで、SDGsの17の目標達成に向け、それらを自分たちの問題として感じてもらうこと、積極的に取り組んでもらうことを目指しています。

